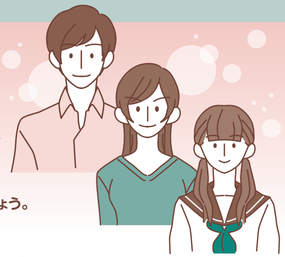
自分のからだのことは自分で決める

誰にとっても大切な性と生殖の健康と権利

「性」と聞くと、ドキッとしてしまう人も
少なくないかもしれません。
でも、誰もが自分のからだとこころの健康を守るために
「性」について考えることは大切です。
そこで今回は、妊娠・出産・中絶などを例に
「性と生殖の健康と権利」について一緒に考えてみましょう。



SRHR(性と生殖の健康と権利)って何?

家庭でできる性教育サイト「命育」より
「10代の性のお悩みQ&A」
https://meiiku.com/

「性」は私たちの「生」と切っても切れないものですが、親しい間柄でも語り合うことが難しい話題です。正しい性知識を持たないために傷ついたり、誰にも相談できず悩む方もいらっしゃるのではないでしょうか。

性別や年代を問わず、結婚や出産を望むか、するとしたらいつ頃が良いか、などについて考えるのはとても大切です。性を正しく学ぶのは、自分やパートナーを守り、自分の人生を健やかに生きることにもつながります。そして、性について考えるうえでは「性と生殖の健康と権利」が欠かせません。これは英語のSexual and Reproductive Health and Rights、頭文字をとって、「SRHR」と呼びます。「誰もが性について個人の意思が尊重され、身体的にも精神的にも社会的にも良好な状態で、自分の身体のことを自分で決められる権利」として、1990年代の国際社会で提唱されました。

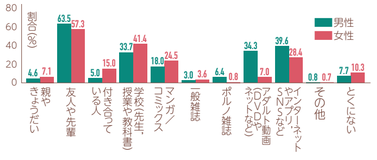
誰もが安心して頼れる性の情報とは

若者たちは性に関する情報をどこから得ているのでしょうか。このグラフ(図1)は高校生を対象にセックスについての情報源を調査したものです。

男女とも「友人や先輩」と「ネット」が多いですね。さらに、男子の場合は「アダルト動画」の影響が大きくなっています。アダルトコンテンツは動画や漫画など様々ですが、どれも性的欲求を満足させるためのフィクションです。そのため、現実で同じように行動してしまうと、人を傷つける可能性がある表現も少なくありません。女性の「付き合っている人」という回答も合わせると、不適切な情報を鵜呑みにして、男性がリードする現状が浮かびます。相手とコミュニケーションを取りながら確認する性的同意が大切です。

「学校(先生、授業や教科書)」との回答から、学校に求められている役割も大きいことがわかります。近年では婦人科医や助産師などによる出張型の性教育の実施が進み、国では令和2年から性犯罪・性暴力対策の一環として「生命(いのち)の安全教育」の取組を推進しています。

平成30年にユネスコなどが提唱した人間関係や性の多様性、ジェンダー平等などを含む包括的性教育への関心も高まっています。

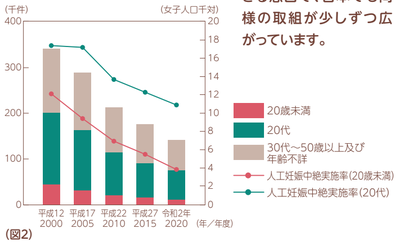


(図1)性交(セックス)についての知識の入手方法(複数回答)
高校生男子2,127名　高校生女子2,149名
出典:日本性教育協会「青少年の性行動」(2018年)

「予期しない妊娠」から見えてくるもの

最新のデータ(図2)によると、人工妊娠中絶件数や実施率は、減少傾向にあるものの、半数以上が10代・20代となっています。日本では、人工妊娠中絶は母体保護法によって条件が定められており、未婚の場合や暴行・脅迫によって妊娠した場合などは、法的には相手の同意が不要です。しかし実際には、予期せぬ妊娠についての相談を受ける窓口に、「医療機関から相手の同意を求められた」「妊娠がわかったら相手の男性が離れていった」という声が寄せられています。予期せぬ妊娠をした女性の多くは、相手の男性や学校、親たちの反応や批判を恐れ、誰にも相談できずに孤立してしまっている状況がうかがえます。

スウェーデンなど欧州では「ユースクリニック」が普及しています。これは、若者が自身の心や身体、性などの悩みを気軽に相談できる窓口で、日本でも同様の取組が少しずつ広がっています。



(図2)
年齢階級別人工妊娠中絶件数および実施率の推移
出典:内閣府男女共同参画局「男女共同参画白書 令和4年度版」

SRHRの実現に必要なこと

ひとりで思い悩み、予期しなかった妊娠への不安に直面する女性を減らすためには、性やからだについての正しい知識を得ると同時に、誰もが利用できる医療サービスなどを整えていく必要があります。

国の「第5次男女共同参画基本計画」(令和2年決定)策定の際には、若い世代から処方箋なしの緊急避妊薬の導入について多くのパブリックコメントが寄せられ、その結果、「適切に利用できるよう検討すること」が新たに盛り込まれました。「女性活躍・男女共同参画の方針2022」(令和4年6月決定)には「諸外国の女性は普通に手にしているのに、我が国の女性には手に入らないと指摘されている事柄についても、速やかに改善が図られるべき」と明記されています。

最終的に自分が自分なりの納得できる選択をするためには、正しい知識や情報を得て、周囲と共有する必要があります。多くの人たちが自分の性やからだに関心を持つことで、一人ひとりのSRHRが尊重されるのではないでしょうか。

埼玉県の取組

「にんしんSOS 埼玉」の設置

一般的な母子保健事業には、母子健康手帳交付前の人に支援が届いていないという課題がありました。そこで、平成30年度、「にんしんSOS 埼玉」を開設し、「生理がこない、怖くて検査薬も試せない」など予期せぬ妊娠等の悩みを抱える方からの電話相談・メール相談に応じています。

また、若い世代に対し、妊娠・不妊に係る正しい知識の普及啓発を行うために、一般社団法人埼玉県助産師会に委託し、県内高等学校等において、妊娠・出産・不妊に関する出前講座を年間約30回開催しています。(保健医療部健康長寿課)

性に関する正しい知識の普及・啓発・教育

発達の段階に応じた適切な「性に関する指導」を推進するために、平成17年度に課題解決検討委員会を立ち上げ、効果的な指導法の研究・実践・普及に取り組んでいます。(教育局保健体育課)

SRHRとは?

セクシュアル・ヘルス Sexual Health
自分の「性」に関することについて、心身ともに満たされて幸せを感じられ、またその状態を社会的にも認められていること。

リプロダクティブ・ヘルス Reproductive Health
性や子どもを産むことに関わるすべてにおいて、身体的にも精神的にも社会的にも本人の意思が尊重され、自分らしく生きられること。

セクシュアル・ライツ Sexual Rights
セクシュアリティを自分で決められる権利。自分の愛する人、自分のプライバシー、自分の性的な快楽、自分の性のあり方(男か女かそのどちらでもないか)を自分で決められる権利のこと。

リプロダクティブ・ライツ Reproductive Rights
自分の身体に関することを自分自身で決められる権利のこと。

SRHRはこの4つの組み合わせから成り立っており、生殖可能な時期だけでなく、思春期や更年期、老年期を含む、一生を通して幅広く性と生殖の健康を保障する考えです。

公益財団法人 ジョイセフ (JOICFP)
https://www.joicfp.or.jp/

interview

『にんしんSOS埼玉』を運営するNPO法人ピッコラーレさんインタビュー

平成30年の相談窓口の開設から約4年経ち、相談件数は増えています。

出典:埼玉県健康長寿課「埼玉県にんしんSOS相談窓口業務実施報告書」

相談者の60～70%は10～20代で、そのうち15%は男性です。県は名刺サイズのカードを県内の高校に配布しているので、それを見て相談してくれるケースもあります。また、ネット検索で窓口にたどりつく相談者も多いです。

相談内容は、「妊娠しているかもしれない」といった妊娠不安や「避妊に失敗してしまったがどうしよう」といった避妊に関する相談、「妊娠を伝えたら相手が離れていった。病院に行くお金もない。頼れる人もいない」といった危機的な妊娠の相談まで様々です。前者からは、正しい避妊の知識などを得られる機会が不足していることで、インターネット上の曖昧な情報に振り回されている若者の存在が見えてきます。後者の場合は、性に関して男女の対等な関係が築けていないことが多く、また社会制度の不備で避妊を男性に頼らざるをえない状況の中におかれ、妊娠から逃れられない女性の現実を思い知らされます。状況は異なっていても、誰にも相談できず一人で孤立している点は共通しています。

特に、「妊娠=おめでた」とされている社会の中で、相談者は自分を責め、葛藤を一人で抱え込んでしまいがちです。すでに家族関係を含め困難を抱えていることも多く、それらが「妊娠」によって露わになるという印象です。私たちは相談者の葛藤している気持ちにじっくりと耳を傾け、彼らの大事にしたいことを尊重しながら妊娠をどうしたいのか(産む・産まない・自分で育てる・人に託すなど)、自己決定のプロセスを伴走していきます。決定した後も葛藤が残ることもあります。一度決めたことを「自己責任」として突き放して女性たちを追い込むのではなく、避妊・中絶・妊娠・出産・子育てについて、その時々のあらゆる選択において社会全体で支える仕組みが必要だと感じます。私たちもこの相談業務を始めてから悩んでいる人がこれほどいることを知りました。こうした窓口が求められている現状に多くの方々に関心を寄せてもらえたら嬉しいです。

埼玉県保健医療部健康長寿課
https://sos.saitama.jp/　にんしんSOS埼玉

SRHRに基づいた高校生のための性教育パンフレット

『#つながるbook』

埼玉県助産師会の講座や教育委員会主催「性に関する指導」指導者研修会で参考資料として紹介されています。2021年にWeb版も公開され、誰でも無料で閲覧できるので、多くの方々に読んでもらいたい一冊です。

With You さいたま は、県内市町村や高校・大学等からの要請に応じて男女共同参画に関する研修や出前講座を行っており、SRHRの重要性への理解を進めることをテーマの一つとしています。10月には「おとなの性教育」と題した講演会を開催し、世代を超えて性について語り合う機会を設けました。これからもSRHRについて考え、情報を発信していきます。